

第8回 ふくまる夢たまごセミナー

日時 2019年11月15日(金)18:00~20:00
場所 市庁舎7階大会議室
内容 先輩に学ぼうPART2
講話「授業づくりについて」
講師：常行 麻友(呉服小学校教諭)
高澤 克 (石橋中学校教諭)

第8回「ふくまる夢たまごセミナー」は、「先輩に学ぼう」シリーズ第2弾(PART2)として、呉服小学校から常行麻友先生、石橋中学校から高澤克先生の2名の先生方に来ていただき、「授業づくりについて」話をさせていただきました。



呉服小学校の常行先生は、講話の最初に「どんな授業をめざしますか？」と塾生に問いかけました。

- A 楽しくてわかる
- B 楽しくないがわかる
- C 楽しいがわからない
- D 楽しくないしわからない

この問いに真剣に考える塾生。

しばらくして多くの塾生が目標順を ABCD としました。そこで、常行先生の話が続きます。

「授業の楽しい時間は、一瞬、その瞬間しかない。一度きりの授業だから私はわからなくても楽しい授業をしたい。わからないことに気付くことも大事な学び、そこからまた授業を作っていく。」

さらに常行先生からは、授業づくりで大事にしている3点、「比較」「アウトプット」「対話」について具体的に話していただきました。



石橋中学校の高澤先生は、主体的で対話的な深い学びをめざしています。ラーニングピラミッド（学習定着率）の他人に教える経験が学習を一番定着させるというデータから、これまで様々な授業形態を工夫してきた経過を話していただきました。

塾生は、中学1年社会「ヤマト王権と仏教伝来」の模擬授業を受け、授業中に必ず自分の意見を考え書く時間を設定すること、また、その意見をもとに、他人と意見を交流、討論する時間も状況に応じて設定することなどを実際に体験しました。

<塾生の感想から>

○ 「楽しい授業」と「分かる授業」、どちらも合わさっていることがもちろん良いのですが、どちらか一つと言われたら悩みました。「分かる」ことは授業の目標であり、めざすべきところでもあります。しかし、特に低学年は、「楽しい経験」は勉強に興味を持つ大切なきっかけであり、楽しい経験が今後理解するまでの努力に繋がるのであれば、楽しい授業を目標にする考えも取り入れたいと思いました。



○ 一コマの授業を作るのにあれほどの工夫と教材研究に時間をかけられていることに少し不安（自分にもできるのかな）を覚えたのですが、先生方がおっしゃられていたように、自分自身が教材研究を楽しむことこそ、本当に大切なことで子どももより深く学ぶことができると思いました。



○ 他人に教える機会のある授業づくり、これは、私が生きてきた中でも他人に教えることの大切さを何度も感じてきたので、まさにこれが授業に生きてくるんだなと思いました。子どもたちが何を学ぶのか、その手立てをするのが先生の役目だと思っています。

○ 「教材研究に終わりはない」という言葉がとても心に残りました。

実習を通して授業づくりの大変さ、教材研究の大切さを実感しましたが、何年も現場で授業をしていらっしゃる先生方もまだまだ教材研究をされていることに驚きました。子どもたちが楽しめる授業、子どもたちの「疑問」を引き出せる授業をするためには、発問ひとつ、授業の作り方ひとつ、日々の研究が大切なんだと感じました。

